

中部ジャワ州スラカルタ市「自閉症教育」の人材育成事業 (2021年～2024年)



障害への見方に変化を ～インクルーシブな教育・社会を目指して～

- **実施団体：**
(共同事業体) 一般社団法人こども支援チエルク、ソラル株式会社(LD サポート・放課後デューサービス・発達支援事業所)
- **対象国・地域：**インドネシア共和国中部ジャワ州スラカルタ市
- **現地カウンターパート**
CBR-DTC YPACNasional (現地NGO)
YPACNasional (NGO障害児発達促進法人)

- **協力内容：**
インクルーシブ教育・障害サービスセンター職員、インクルーシブ教育実施校、幼稚園の職員を対象に、障害への考え方や、自閉症の特性、「視覚構造化*」に関する研修を実施する。

(＊視覚構造化…自閉症の特性である「視覚情報処理機能の優位性」に合わせた教育方法)

- **団体のこれまでの取り組み：**

インドネシアでの幼児教育や特別支援教育への支援、草の根技協(支援型)「幼児教育におけるインクルーシブ教育実践モデル形成事業」によるインクルーシブ教育の促進に向けた活動など。

- **事業実施の背景：**

対象地域では障害のある子どもに関わる教師やセラピストの多くが「障害を治す」「普通に近づける」という考えのもと指導や訓練を行っている。また、教育終了以降の「社会参加」に関する具体的なビジョンが見られない。この事業では、自閉症のある子どもの行動の背景にある特性に合わせた支援の考え方や支援方法を紹介する研修、及び日本での「社会参加」の考え方や実践を紹介した。



インドネシア国の課題と成果

課題

- ・ 「障害は本人の問題であり、それを治すことが大切である」という考え方がされており、子どもの実態に合わせて支援者自らが支援方法や環境を調整していく考え方や実践方法が欠けている。
- ・ 「自閉スペクトラム症 (ASD)」の考え方、本人の認知特性や感覚特性に合わせた支援方法を学ぶ機会が少ない。

成果

- ・ 研修参加者の発言や記述から「子どもを変えるのではなく自分自身の考え方や方法を変えることが大切」という表現が現れるようになった。
- ・ 視覚構造化の教材の作り方、教室環境の整備方法のワークショップや本邦研修以降、教育環境が自閉症のある人にとってやさしいものになっていった。

事業の波及効果

！ 保護者にも変化が

J君は視覚構造化を活用した教材に熱心に取り組む児童。そのASD特有の長所に気づいた教師は、J君に対する見方が肯定的に変わっていった。教師は彼の成長の様子をビデオにして本事業の研修会で事例紹介したいと打診したが、当初保護者は反対していた。しかし、我が子の成長を見るうちに、保護者にも教師の献身的な姿勢が伝わっていった。そして、最後の研修会で「我が子が先生方の研修のお役に立つならば」として、映像とともに事例を紹介することを受け入れてくれた。

支援者の知識と技術の向上と共に子どもの成長が現れ、その変化に対して保護者が子どもと支援者を信頼していくという変化につながった。